

エッセンシオム

は普通の油脂ではない！？

通常、バイパス油脂はエネルギー源として、乳脂率対策として使用されることが多いですが、エッセンシオムにはそれらには無い特徴があります。

その① 繁殖対策

エッセンシオムには「リノール酸」、「リノレン酸」という脂肪酸が多く含まれます。

この2つは必須脂肪酸と言われるもので、牛が体内で生成することができないため、エサとして給与する必要があります。これらが繁殖成績に良い影響を与えることが多くの研究で発表されています。

下の表は米国で行われた試験の結果です。

対照区(1,989頭)とエッセンシオム給与区(2,219頭)の各成績を表にしてあります。

対照区にはエッセンシオム区と脂肪量が同じとなるように飽和脂肪酸を給与しています。

	乳量	受胎率	妊娠率
対照区	33.4kg	35.6%	23.8%
エッセンシオム区	36.2kg	38.2%	25.9%
差	+2.9kg	+2.6%	+2.1%

エッセンシオム区の方が乳量が多いにもかかわらず繁殖成績は良好な結果が出ました。

同じエネルギーを与えても、製品の種類、質によって現れる効果が変わってきます。

また、この試験では下記のような結果も出てます。

	BHBA(mg/dL)	体細胞リニアスコア	初期胚の死
対照区	5.05	3.09	7.6
エッセンシオム区	2.82	2.73	2.5
差	-2.23	-0.36	-5.1

BHBA(β -ヒドロキシ酪酸)はケトン体の一種でケトーシスを引き起こす要因となります。

エッセンシオム区はBHBA、体細胞リニアスコア、初期胚の死が対照区と比べて少なかったことがわかった。

近年、必須脂肪酸には血中の好中球(白血球の一種、生体内に進入した菌を殺菌する)の数を維持させたり、血液から好中球を移動させる働きを持つL-セレクチンの量を増やしたりする事がわかっています。

これらの事から必須脂肪酸を給与する事で牛の免疫機能が高められるのではないかとされています。

エッセンシオムは過去に多くの給与試験を行ってきましたが、上記以外の試験でも乳熱や第四胃変異が減少したというデータもあります。

これは他のバイパス油脂製品には無い②免疫機能向上が期待できるのかもしれません。

今後も研究を重ね、より良い製品を提供できるようにいたします。

